

「岐阜県長期構想中間取りまとめ」に対するパブリックコメント意見とそれに対する県の考え方

	意見(要旨)	意見に対する県の考え方	本文修正あり
Ⅶ 長期構想全般に関して			
1 全体の評価			
1	重点プロジェクトについては、うまくまとめられていて非常にわかりやすい。 第1章は、総合計画としては仕方がないと思うが、字がぎっしりで読み手はつらい。	構想に掲げた政策のうち、特に重点的に予算、人などの行政資源を投入して取り組む事業を重点プロジェクトとして取りまとめたところであり、選択と集中による事業実施を進めてまいります。 また、長期構想の普及にあたっては、県民の方にわかりやすくその内容を知っていただくため、概要版を作成するなど、より簡単でわかりやすい資料による公表、説明を行ってまいりたいと思います。それ以外にも、県民の方に対して直接職員が出向いてご説明、意見交換する場を設けるなど、長期構想の内容を県民の皆様に普及していく工夫をしてまいります。	
2	・今、構造改革の方向を打ち出しておくのは極めて重要であり、長期構想ゆえに将来を見込んだものであり良いと思う。 ・変えるものは変える、守るものは守る、県全体でしっかりおさえておく大事な時期である。 ・新しいものにチャレンジしていくより、今ある弱点を除去していく時代であり、どうしたら弱点をプラスに転換出来るかを考えなければならない。 ・しっかり問題点をとりあげ十分目が行き届いていると思う。 ・もう少し踏み込んだ表現を使ってもよいのでは。	長期構想においては、若手職員からなる「岐阜県の将来構想研究会」における研究成果をもとに、現状分析、将来推計等を行い、各分野における課題、及び将来起こりうる課題を抽出し、その課題解決に向けて県として何をすべきかという課題解決型の視点を重視した点に大きな特徴があります。ご指摘のとおり、こうした課題解決に向けた取組を積極的に進めてまいります。本構想は10年間という期間での構想であることから、第5章においては政策の方向性を記述することとめており、やや抽象的な表現となっておりますが、具体的な政策を踏まえての記述を心がけており、また第6章においては、実施する政策について具体的に記述しております。	
3	全体的によくまとめられていると思う。土木関係についてはもっと詳しく記載されていると良いが。	今後は、長期構想に掲げた政策目的の実現に向けて、具体的な施策を進めてまいります。 土木関係については、橋りょうや道路など社会資本の高齢化に対する計画的な維持管理の取組や、地域を支える優良な建設業の育成、交流拡大につながる基盤整備などの政策を盛り込んでおり、県民の安心を支える基盤、産業経済の発展を支える基礎という観点から社会資本の整備・維持は重要であるとの認識であり、そのために必要な政策は記述しております。	
4	こうした構想の策定は、無駄遣いを省き、効率的に行政運営するうえでも、大変意義ある取り組みである。	ご意見のとおり、本構想は、政策目的を明確にし、政策目的に従い、今後10年間に県として取り組むべき政策を定めるとともに、特に予算、人などの資源を重点的に投入すべき事業を重点プロジェクトとしてまとめており、今後10年間の県政は本構想に記載した政策目的に立ち返りながら、「選択と集中」により真に政策の目的を達成するための事業を進めてまいります。	
5	一定の成果を得るには継続が重要。市町村でも10年首長が一定の方向で頑張ればそれなりの成果がある。長期構想も10年間は、各部局で継続して取り組んで欲しい。	長期構想は今後10年間で取り組むべき政策を提示したものであり、本構想で掲げた政策目的達成のために、構想に掲げた政策の方向性に沿って、より効果的な事業を検討しながら、10年間継続して取り組んでまいります。	
6	今回の長期構想では、「本県を取り巻く環境と取り組むべき課題で現状と課題」を整理し、さらに良い所(本県の強み、チャンス)を伸ばす方向に政策がまとめられており、県自身が基本目標にもあるふるさとに対する「希望と誇り」の意が感じ取れる。県のこういう姿勢での計画策定は良いと考えられる。今回の計画は全体的に今の社会全体に共通している内容であると考えられる。100%の計画を策定することは困難であり、全体的に良くできた計画である。加えるならば、人が暮らしてもらえる対策をもっと充実させると良いと思う。	今後は、長期構想に掲げた政策目的の実現に向けて、具体的な施策を進めてまいります。 また、ご指摘のとおり、岐阜県に人が暮らしてもらえるよう、安心して暮らせる地域づくりや誰もが活躍できる環境づくりなど、総合的に対策を進めてまいります。	

7	世界情勢が大きく変化の中で長いスパンで指標を作ることの難しさがあると思うが、それなりに考えられていると感じた。	今後は長期構想に掲げた政策目的の実現に向けて、具体的な施策を進めてまいります。	
8	自分たち現場の人間は、どうしても目先にとらわれて日々の活動で手一杯になり、長期的な視野で物事を考える機会が乏しくなる。こういった形で長期的な計画を示してもらえると、そう言った部分が補われて大変ありがたい。自分以外の周りの人にも是非見せて上げたいと思う。	長期構想については、今ある課題に対する取組はもちろんのこと、人口減少等に伴い、将来起こりうる課題を抽出し、その課題解決に向けて何をすべきかという問題意識から出発しており、ご指摘のとおり、長期的な課題で、すぐに目に見える形では問題は現れないけれども、将来起こりうる課題に対して今から何ができるのかという視点で取り組む政策も提示させていただいています。こうした課題を県民の皆様と共有し、ともに解決に向けて議論をするということは大変重要であると考えており、構想策定後も車座討論会などによる県民の皆様との意見交換を継続して実施していく予定です。	
9	長期構想<中間とりまとめ>を拝読致しました。作成等、大変だったことだと推察致します。厳しい状況にありながら、未来を絶望しない取り組みが掲げられていると思いました。	今後は長期構想に掲げた政策目的の実現に向けて、具体的な施策を進めてまいります。	
10	絵に描いた餅、単なる綺麗事に終わらぬようお願いしたい。少子高齢化、団塊の世代の高齢化、地球温暖化というのは確実にくる問題。こうしたことを踏まえ、それらをターゲットにビジネスに結びつけていきたいと考えている。	絵に描いた餅にならないよう、長期構想に掲げた政策の目的、政策の方向性に沿って、具体的な施策を着実に進めてまいります。	
11	「中間取りまとめ」にそって、施策を推進していただきたい。	長期構想に掲げた政策の目的、政策の方向性に沿って、毎年度の予算において、具体的な事業を進めてまいります。	
12	今後10年、20年、30年後の岐阜県が直面する課題(危機)をデータとして出した点は評価できる。長期構想の策定には、独自性、アイデンティティーが求められる。	長期構想の策定にあたっては、まず人口減少をはじめとする各分野での現状分析、将来起こりうる課題の抽出などを行い、こうした課題解決のためにはどんな政策が必要であるかという流れで策定しており、こうした課題解決型の視点は本構想での重要なポイントであると考えております。	
13	「希望と誇りの持てるふるさと岐阜県を目指して～人口減少時代への挑戦～」と副題がつけられた「岐阜県長期構想」は、従来の長期構想の視点とは異なり、かなり意欲的な構想であると評価しています。	今後は長期構想に掲げた政策目的の実現に向けて、具体的な施策を進めてまいります。	
14	行政にはあまり理解がなくても、岐阜県の特徴や、また今後の方向について理解できました。この「岐阜県長期構想」の内容は、外交と防衛を付け加えたら、日本の国家構想策定にも通ずる格調高い内容であると思います。作成されました皆さまの労に敬服致します。	今後は長期構想に掲げた政策目的の実現に向けて、具体的な施策を進めてまいります。	
15	「第1章 目指すべき将来像」について、政治家と官僚の役割は、国民(県民)が安心して日々生活の営みを継続できる環境を作っていくことと思います。その視点から、当然とはいえ、介護や医療そして安全・安心などが一番に言及され、的確だと思います。続いて、岐阜県の地域的な優位性をつないで、農林・畜産含めた産業が、述べられ、次に外国人に言及されています。さらに、清流と自然についての活動はまさに岐阜県の特徴を的確にあらわされた表現であります。	長期構想においては、第3章の県政運営の基本方針の中で、県・市町村の取り組むべき政策と優先順位の考え方を提示させていただいたところであり、目指すべき将来像の提示にあたっては、この基本方針をもとに、若手職員からなる「岐阜県の将来構想研究会」による現状データ分析や将来推計により抽出した将来起こりうる課題を解決した後の岐阜県の姿、また車座討論会や有識者膝詰め談義、インターネット県民委員会など県民の皆様との多様なスタイルでの大規模な意見交換を踏まえた県民の皆様のごありがたいという願い、思いをもとに、本県の強みや来るべきチャンスも考慮した上で設定しております。	
16	岐阜県は、全般的には非常にバランスの取れた恵まれた地域であると確信します。美しい自然と集約した産業地域、またそれらを支える交通インフラ、そして中間の農業地域等々これほどバランスよく与えられた地域は日本でも数少ないですね。その資源を充分活用する長期構想計画に対して、その成功を祈念しています。	長期構想については、人口減少等に伴う課題解決型の視点とともに、本県の持つ豊かな自然をはじめとした地域資源や強みを活かした政策を進めることとしており、今後は構想に掲げた政策を着実に進めてまいります。	
17	各種手法による県民の意見聴取、県の若手職員による現況の整理、課題の把握・分析などを踏まえ、今後の岐阜県のめざすべき方向性、その実現のために実施する政策がよくまとめられている。	今後は長期構想に掲げた政策目的の実現に向けて、具体的な施策を進めてまいります。	

18	<p>全体的に、全ての施策や事業を盛り込みすぎて、欲張りすぎている感が否めない。</p> <p>人口減少社会に対する今後のビジョンであるならば、もう少し内容を凝縮するなど、分かりやすく示すべきではないか。</p>	<p>本構想は、人口減少に伴う様々な課題への対応をメインとしつつ、県としていつの時代にも変わらず取り組むべき県民の安心・安全の確保に向けた政策や環境問題など岐阜県という空間に責任を持って取り組むべき政策なども提示しているところです。県政の守備範囲は元来360度であり、いずれも県民生活にとって重要なものと考えておりますが、個別の政策の方向性の提示にあたっては、政策目的の達成のために重点的に取り組むべき政策に絞った形で提示させていただいております。</p> <p>長期構想策定後は、県民の方にわかりやすくその内容を知っていただくため、概要版を作成するなど、より簡単でわかりやすい資料による公表、説明を行ってまいりたいと思います。それ以外にも、県民の方に対して直接職員が出向いてご説明、意見交換する場を設けるなど、長期構想の内容を県民の皆様に普及していく工夫をしてまいります。</p>	
19	<p>全体について、行政の立場から避けて通れない多くの問題から、やや総花的な提言書のような感じを受けました。実際の提起事項を具体化するには、実行のための案策定、推進のためのパワー、概略年度計画、そして、予算や、場合によっては、行政の組織などの変革等々が必要です。それらが明確化されると、直近の課題や、長期課題などの優先順位も見えてくるのではないかと思います。</p>	<p>ご指摘のとおり、構想に掲げた政策の実行にあたっては、重要性、緊急性の観点から優先順位をつけながら進めていくこととします。また、構想に掲げた政策のうち、特に重点的に予算、人などの行政資源を投入して取り組む事業を重点プロジェクトとして取りまとめたところであり、選択と集中による事業実施を進めてまいります。</p>	
20	<p>構想は相前後して立案される基本計画で体系化・具体化され、そこでは向こう10年間の財政に裏付けられた政策・施策、実行計画、及びベンチマークが提示されるものと期待しています。もしそのような位置づけを持つならば、構想そのものを10年間と拘束せず、今後30年、50年後の岐阜県が目指す方向や夢のある将来像という観点から策定してほしいと考えています。例えば、ヨーロッパでは数百年をかけて建築された教会が数多く存在し、イギリスのレッチワースなどはまちづくり計画を100年前に策定しています。また、スペインのサクラダファミリアなどは何時完成するかわからない建物を建設中です。今は荒唐武稽であっても後世に亘って県民の誇りとなり、子孫に感謝されるような夢のある構想を策定してほしいものです。そのような観点に立てば、構想に示されている将来像は現実的で無難ではありますが、心ときめく夢がありません。岐阜県独自の地方分権後の道州と基礎的自治体及びコミュニティのあり方、産業と雇用のあり方、社会資本と都市計画のあり方、福祉や教育のあり方などを骨太に論じて欲しい。そのような夢や目標を土台とした直近10年間の長期計画を是非立案してほしいと考えます。</p>	<p>本構想は、昨年度に庁内の若手職員からなる「岐阜県の将来構想研究会」にが、人口減少に伴う課題など、将来起こりうる課題を抽出・提示し、これに基づき、課題解決のために、今後10年間で県が取り組むべき政策の目的と方向性を提示させていただいたものであり、課題解決型の視点を重視して策定しております。この根底にあるのは、今後30年先も50年先も県民の皆さんが安心して岐阜県で暮らしていくためには、あるいは希望を持って暮らしていくためには、県として今何をしなければならないのかという視点であり、この視点はまさに将来を見通した視点であると考えております。なお、構想の策定に際しては、課題解消型の視点のほか、本県の持つ強みや来るべきチャンスを活かしていくという、いわば前向きな視点からの検討も加えた上で策定しております。長期構想策定後は、こうした県の方や、構想の内容について、車座討論会等を通じて県民の皆様との課題共有、議論を続けていきたいと考えております。</p>	
21	<p>構想は大きな政府を目指すのが曖昧です。近接及び補完性の原理に則り地方分権を遂行するならば、論理の帰結として地方政府は小さな政府にならざるを得ません。その小さな政府の役割は、社会的弱者へのセーフティネットを拡充するための富(税金)を獲得し配分するため、産業振興と雇用確保の政策を立案し、県民が自由に活動できる流通基盤(都市基盤、情報基盤)を整備しつつ、過去の規制を緩和し新しいルールを作ることではないでしょうか。そのような視点から構想を照査すれば、一方で財政難を強調しつつも、他方ではほとんどばらまきに近く、言い換えれば大きな政府を目指す様な施策が列挙されています。県民本意の姿勢は評価しますが、果たして税収とのバランスは取れているのだろうかと心配になります。反面、富を創出する政策では、過去のIT産業、地場産業、伝統産業、中小零細企業などの振興政策を総括することなく、単なる願望や選択肢が政策体系的に整理されず列挙されているのではないかと。また、ここには民間支援以外の行政が果たすべき骨太な経済的枠組みと実行すべき政策が見あたらないような印象を受けました。</p>	<p>長期構想においては、第3章の県政運営の基本方針において、県が果たすべき役割と優先順位の考え方を提示させていただいており、この基本方針に沿って、構想に掲げた政策目的達成のために県が取り組むべき政策を提示しております。</p> <p>構想に掲げた政策の実行においては、選択と集中のもと、重要性、緊急性の観点から優先順位をつけながら着実に進めてまいりたいと考えております。</p> <p>また事業実施にあたりましては、ご指摘のとおり、過去の県の取組とその効果等について十分に検証しながら、政策目的達成のために効果のある事業を進めてまいります。</p>	
22	<p>第1章 目指すべき将来像(P5～)について、5つの「目指すべき将来像」のうち、「安心して暮らせる岐阜県」、「誰もが生き生きと活躍できる岐阜県」、「つながり、支え合う岐阜県」については、岐阜県としての個性が感じられない。</p>	<p>長期構想が目指す目標につきましては、若手職員からなる「岐阜県の将来構想研究会」による現状データ分析や将来推計により抽出した将来起こりうる課題を解決した後の岐阜県の姿、また車座討論会や有識者膝詰め談義、インターネット県民委員会など県民の皆様との多様なスタイルでの大規模な意見交換を踏まえた県民の皆様のごありがたいという願い、思いをもとに、本県の強みや来るべきチャンスも考慮した上で設定したものであり、まさに岐阜県の目標としてふさわしいと考えております。</p>	

23	<p>長期構想(H20年10月)においては、これまでのような右肩上がりの発展モデルは通用せず、「これまでとは異なる考え方」で「発展・継続・縮小・廃止・民間への移管」の方向付けをしている。また、人口減少時代により暮らしに対する危機感、将来の不透明性のなかで、基本目標を設定している。考え方はよく分かるが、「成熟した社会」における経済の姿、すなわち量から質への転換にどう対応していくか、成熟型・持続安定型の考え方が少し不足していると思われる。</p>	<p>今回の長期構想においては、これまでの右肩上がりの従来のモデルが通用しない時代において、人口減少という大きな課題を正面から見据え、人口を増やし量的拡大を追求しようとするのではなく、人口減少は避けられないものとしたうえで、今後の時代にあった地域のあり方を考えた点に特徴があると考えております。人口減少に伴い、地域内消費が減少する中でいかに地域を維持していくか、現役世代人口が減少し働き手が減る中でいかに地域を維持していくか、高齢者が増大する中でいかに地域を維持していくかといった問題意識から、モノづくり産業、農林畜産業の振興、女性や高齢者など誰もが活躍できる地域づくり、地域における福祉の支え合いなど、どれも人口が減少する中で、いかに持続的に地域を維持していくかの観点から政策を導き出して、本構想全体を通して「成熟型・持続安定型」という考え方を基本にしております。</p>	
24	<p>「第2章 本県を取り巻く環境と課題」について、人口減少をキーワードに、あらゆる角度から問題の分析と適正な提言ですが、人口減少は負の問題ばかりでしょうか。いままで長年かけて投資した道路、鉄道などは維持課題はありますが次世代の財産です。また、国土の狭い日本では一人当たり土地面積は大きくなり、住宅や生活環境向上も寄与するし、また食料の自給率向上にも貢献するでしょう。従って、岐阜県の特徴である抜群の自然環境と少子化の長所を利用した施策を農・工業や観光に展開する工夫が必要で、そのための提言をもっと明確に出して頂きたかった。</p>	<p>長期構想においては、若手職員からなる「岐阜県の将来構想研究会」における研究成果をもとに、現状分析、将来推計等を行い、各分野における課題、及び将来起こりうる課題を抽出し、その課題解決に向けて県として何をすべきかという課題解決型の視点を重視した点に大きな特徴がありますが、課題解消型の視点のほか、本県の持つ強みや来るべきチャンスを活かしていくという、いわば前向きな視点からの検討も加えた上で策定しております。また、本県の持つ豊かな自然を県民全体で守り、あるいは自然資源を活かしたエネルギーの導入、製造業の厚い集積という利点を生かしたモノづくり産業の振興や、東海地域でも有数の高冷地野菜や肉用牛の産地を有するという利点を生かした儲かる農業をめざした政策、豊富な森林資源を活かした林業振興、豊富な観光資源を活かした観光交流の拡大など、本県の持つ強みを活かした政策も重点的に進めてまいります。</p>	
25	<p>中間取りまとめ全体に対して異論はない。理論的に問題はないが、将来の具体像が見えてこない。岐阜県ならではの施策をはっきり記載した方がよい。</p>	<p>長期構想においては、2章において人口減少などの課題を分析し提示するとともに、一方で県の持つ強みや特徴についてもあわせて提示させていただいており、その強みや特徴を活かした政策も進めてまいります。</p>	
26	<p>本県の持つ強みを活かすだけでなく、弱みについても分析し、その弱みをどう克服していくか、強みに変えていくかという視点も必要。</p>	<p>長期構想は各分野ごとの現状分析や将来推計を通じ、現在及び将来起こりうる課題を抽出し、その課題解決のために何をすべきかという観点で政策目的を設定した、課題解決型の視点で策定しており、まさにご意見にあるとおり、弱み(課題)克服に向けた取組を進めてまいります。</p>	
27	<p>高齢化、少子化そして財源不足という三重苦のなかでメリハリをつけた施策を。どういう県にしていきたいのか。</p>	<p>限られた財源の中で、長期構想に掲げた政策の実現を図るためには、「選択と集中」により、事業の緊急性、重要性の観点から優先順位をつけながら進めてまいります。また、特に重点的に予算、人などの行政資源を投入して取り組む事業を重点プロジェクトとして掲げ、メリハリをつけた政策の実行にあたります。</p>	
28	<p>必修は安心、安全、教育、文化と思う。</p>	<p>長期構想においては、目指すべき将来像に対応する形で、5つの政策の柱を掲げており、県民の皆様の安心・安全を確保する取組については、「安心して暮らせるふるさと岐阜県づくり」として、教育、文化の取組については、「ふるさと岐阜県を未来につなぐ人づくり」として位置づけ、重点的に取り組んでまいります。</p>	
29	<p>制度やモノではなく、「生き合う」ことの大切さ、「夢」や「希望」「理想」が持てるようなメッセージ(スピリッツ)を発信していく必要があるのではないか。</p>	<p>県民の皆様が抱える様々な暮らしの不安の解消に全力を挙げ、岐阜県に住んでよかったと思え、また岐阜県に明るい希望を生み出し、誰もが誇りを持てる地域をつくらせていくために、「希望と誇りの持てるふるさと岐阜県づくり」を基本目標として掲げたところです。</p>	
30	<p>住みやすい県というのは、所得の多さや施設の数など数値的な豊かさではなく、住んでいる人がどう感じるかである。経済優先ではなく、心の豊かさを優先させなくてはいけない。</p>	<p>ご意見にあるとおり、県民の皆様が岐阜県に住んでよかったと思える岐阜県にすることが、この長期構想の目標であり、県民の皆様が安心して暮らし、また将来への明るい希望を持ち、誰もが誇りを持てるふるさと岐阜県づくりに向けて、構想に掲げた政策を進めてまいります。</p>	

31	<p>・人口減少の問題は東北などに比べれば大した問題ではなく、地域というものをどう考え直すかという段階にある。</p> <p>・どれくらいの地域単位で物事を考えていかなければいけないのかが、今後の課題である。</p> <p>・広域合併の結果をプラスの面とマイナスの面で分析すべきである。</p>	<p>人口減少に伴い地域活動の維持が問題となることから、地域の活力を維持していくための産業振興やまちづくりなどの取組を進めてまいります。こうした取組を進めていく中で、ご指摘のとおり、広域での連携も含めて、地域の実情に合わせた取組に対する支援を行ってまいります。また、市町村合併については、一義的には地域の皆さんの意思を最優先に考えるべきだと考えておりますが、ご指摘のとおり、平成の大合併の評価をしっかりと見極め、分析してまいりたいと考えております。</p>	
32	<p>これから人口減少、少子高齢化が進むことが予想されますが、若者への負担が大きくなりすぎないように、若者が将来へ希望を持てるような地域づくりも重点的に計画されると良いと思います。</p>	<p>将来の岐阜県を支える人材である若者が夢と希望を持てるよう、長期構想においては、「将来の夢や目標の持てる子どもを育てる」という政策を掲げ、子どもの頃から自ら考え行動できる「地域社会人育成」に向けた取組を進めるとともに、介護サービス・医療サービスの確保を図り、若者が将来に不安のない地域づくり、産業振興、産業人材育成などに取り組むことで若者が県内で働きたいと思える地域づくり、ふるさとに誇りを持てる地域づくりなど、若者が岐阜県に希望を持てるような地域づくりを総合的に進めてまいります。</p>	
33	<p>県職員の共通認識ができて、目標がバラバラではなくなったのではないかと。県民から見ても、「県はこう考えているんだ」と理解でき、県民と県との距離が近くなったと思う。</p>	<p>長期構想においては、何をやるかではなく、何のためにするのかということに重点を置き、課題を踏まえてなぜその政策に取り組むのかといった政策目的を明示したところですので。これによって、政策を進める上で、常に本構想に立ち返り、何を狙っているのかを確認しながら事業を進めてまいります。</p>	
34	<p>多くの方々の意見を採り入れていることは非常に素晴らしいことだと思う。様々な意見があったと思うが、良くまとめたと思う。</p>	<p>今後は長期構想に掲げた政策目的の実現に向けて、具体的な施策を進めてまいります。</p>	
35	<p>今回のように、県民及び民間の声が今後の岐阜県に反映されることは非常によい出来事で県民の一人として、改めてよりいっそう協力してゆかねばという自覚と責任を感じた次第です。「中間取りまとめ」を一読し、取り組む政策の方向性・重点的に取り組む事業などについては大いに賛成です。</p>	<p>今後は長期構想に掲げた政策目的、政策の方向性に沿って、施策を進めてまいります。また、構想に掲げた政策目的は、県の取組だけで達成されるものではないため、今後構想に掲げた問題意識を県民の皆様と共有するとともに、ともに協力しながら施策を進めてまいります。</p>	
36	<p>長期構想の策定に向けての43頁、徹底した行政改革～カネを使わず、知恵を使う県政づくりの考え方には大賛成ですが、リストラクチャリングとボランティアに依存した政策ばかりではなく、知恵と工夫を評価する制度も作る必要があるのではないのでしょうか。</p>	<p>徹底的な行財政改革を進めるとともに、長期構想に掲げる政策については、限られた財源のなかで、知恵と工夫を凝らし、最小限の費用で最大の効果があげられるよう、取り組めます。</p>	
37	<p>今回の計画は“長期”となっているが、10年のサイクルが果たして長期と考えられるだろうか。むしろ、中期目標くらいと考えられ、優先順位を明確にし、達成可能な計画とすべきである。</p>	<p>長期構想に掲げた政策の実施にあたっては、選択と集中の姿勢により、事業の重要性、緊急性の観点から優先順位をつけながら、着実に進めてまいります。</p>	
38	<p>10年後の将来ビジョンを見据えて、重点的にやるべき事業の優先順位を決めて取り組んでいくことが望ましい。</p>	<p>ご指摘のとおり、構想に掲げた政策の実行にあたっては、重要性、緊急性の観点から優先順位をつけながら進めていくこととします。また、構想に掲げた政策のうち、特に重点的に予算、人などの行政資源を投入して取り組む事業を重点プロジェクトとして取りまとめたところであり、選択と集中による事業実施を進めてまいります。</p>	
39	<p>10年間の見通しの中で、色々な状況が想定される中で、「できる事」と「目指す事」を明確にした方が、指針(方針)として取り組みやすいのではと感じました。</p>	<p>長期構想においては、県が取り組むべき政策の方向性を提示した県政運営の指針であり、その意味では、県として実際に実施する政策を掲げております。しかしながら、ご指摘のとおり政策目的達成のために何をめざし、どこまで取り組むかということについては、第5章の記述だけではわかりづらいため、県民全体で目指す数値目標と、県が取組むべき事業実施指標の2つの数値目標を新たに追加したところとします。</p>	

40	<p>全体的に良くまとまっていると思う。これだけをすべて行うのは無理があるので、できることからやっつけていけばよい。民間でできるところは民間に協力を仰いで進めていけばよい。</p>	<p>構想に掲げた政策の実施にあたっては、重要性、緊急性の観点から優先順位をつけながら、着実に進めてまいります。</p> <p>また、政策目的の実現に向けて、県民の皆様や市町村など多様な主体との連携、協力のもとに進めていく必要があり、県民に期待される役割や県民の皆様等多様な主体との連携のもとに政策を進めていく旨、県政運営の基本方針に提示したところです。地域社会の課題解決にあたっては、県民の皆様との議論の場を設け、それぞれの立場でどのような貢献ができるか議論し、共に地域づくりを進めてまいります。</p>	
41	<p>長期構想等の総合計画は5年10年スパンで物事を考える必要があるため、今後、県政を担う若手が問題意識をもち、政策立案できるスキームはよく、庁内で浸透させてほしい。</p>	<p>長期構想の策定にあたっては、若手職員からなる「岐阜県の将来構想研究会」において各分野ごとの課題を抽出し、長期構想策定のたたき台としての研究会報告を提示したり、構想策定にあたっては県民の皆様との意見交換と並行して職員一人一人が課題を共有し、政策の検討を行ってきたところです。こうした取組については、構想を策定したから終わりということではなく、引き続き進めていきたいと考えており、毎年度データ等を分析し、課題を抽出し、政策立案につなげる仕組みを確立してまいります。</p>	
<p>2 県政運営の基本方針について</p>			
1	<p>第3章 第1節 P41について、「県民に期待される役割」や「市町村の役割」については、もっと期待を込めた表現(責任を持っていただけるような表現)をしてはどうか。例えば、「県民に期待する役割」など。</p> <p>この厳しい財政等の状況では、しっかりとした役割を県民や市町村の方が担って頂かないと乗り切れないのではないかと。</p>	<p>ご意見のとおり、政策目的の実現に向けて、県政だけで解決できる時代ではなく、県民の皆様や市町村など多様な主体との連携、協力のもとに進めていく必要があり、長期構想に掲げた県政運営の基本方針にもその旨提示したところです。ただ、本構想については、政策目的の実現に向け、県として取り組むべき政策を提示する「県政運営の指針」としての性格を持つものであり、まずは県として責任を持って政策に取り組むという姿勢を明らかにする表現としております。</p>	
2	<p>目指すべき将来像の基本目標、5つの将来像は基本姿勢として評価できる。しかし、それぞれの施策については、現状認識、それに対する対策の整合性に違和感がある。県政運営の基本方針第1項に“県民に期待される役割”を掲げているが、県民は指揮者、コンダクターではなく、基本方針に従ってそれぞれの役割を果たす立場であり、この項に示す内容とは考えられない。また、“2. 多用な主体との連携”に、同様の内容が記述されており、“1. 県民及び・・・”の項は削除または修正すべきと思う。</p>	<p>目指すべき将来像の達成に向け、長期構想に掲げた政策目的、政策の方向性に基づき、効果的な施策を毎年度の事業の中で実現してまいりたいと考えております。</p> <p>またご指摘のとおり、県民の皆様は、地域の課題をとともに解決していく主体、プレイヤーであると認識しております。しかしながらまた、県民の皆様は地域の課題を解決するため、何ができるかを自らあるいは行政とともに考えていく立場でもあり、そういった意味から、長期構想においても、県民とともに地域づくりを進めるための議論を行っていく旨記述しているところです。</p>	
3	<p>「第3章 県政運営の基本方針」についてでは、行政のあり方について勉強させていただきました。</p>	<p>長期構想においては、県として取り組むべき政策を明確にするため、市町村や国との役割分担と優先順位を提示させていただいております。これをもとに、県が取り組むべき政策を精査した上で、第5章以下の政策の方向性を示しております。</p>	
4	<p>県民の権利ばかりでなく義務、協力、奉仕をもっと表面に出すべき。(ゴネ得の徹底排除など具体的に)</p>	<p>ご意見のとおり、政策目的の実現に向けて、県民の皆様や市町村など多様な主体との連携、協力のもとに進めていく必要があり、県民に期待される役割や県民の皆様等多様な主体との連携のもとに政策を進めていく旨、県政運営の基本方針に提示したところです。地域社会の課題解決にあたっては、県民の皆様との議論の場を設け、それぞれの立場でどのような貢献ができるか議論し、共に地域づくりを進めてまいります。</p>	
5	<p>20世紀のイギリスの政治学者ジェームス・プライスの言葉で「地方自治は民主主義の学校」という言葉があります。学校ではじめて学問に触れるように住民は地方自治によってはじめて「政治」に触れることになるでしょう。さて最近「国から地方へ」といった「地方分権」が盛んに言われていますが私はまずは「はじめに地域主権ありき」だと思います。それぞれの個性を生かし、地域の運営は完全に地域に任せる。このことは住民の意識改革にもつながります。岐阜県は五圏域に分け、各々には振興局があると聞いておりますが、それぞれの圏域の特性を生かした地域行政を推し進めていただき、さらに各圏域での新しいブランドを発掘し全国に「新しい岐阜ブランド」としてアピールしていただければと思います。</p>	<p>ご指摘のとおり、長期構想においても「近接補完の原理」を踏まえ、地域の課題については地域により近いレベルで行われるべきであると記載しております。この原理を踏まえ、県と市町村との役割分担についても、市町村と十分に協議し、本年4月に「権限移譲のあり方に関する報告書」を取りまとめたところであり、具体的には、この議論を尊重した包括的な権限移譲等を進め、市町村の自主性を高めてまいります。また、ご指摘のありました地域の個性を活かした地域づくりの推進につきましては、地域住民、市町村などの意向を尊重し、必要な支援を進めていきたいと考えております。</p>	

6	<p>今回の長期構想 第3章 県政運営の基本方針の中で「地域の課題を共有し、共に対策を考える」(P44)の項目があり、地域(市町村)で起こっている課題についても、是非とも県サイドからも良きアドバイスをしていただければと思っております。</p>	<p>長期構想にも記述しているとおり、地域の課題解決にあたっては、県と市町村が連携を密にし、同じ目線で課題の共有を図り、相互になしうることを協議しながら、共になすべき政策や対応を考えてまいります。</p>	
7	<p>県財政が厳しい状況の中では、いかに県民に活動してもらうかが重要であり、県民の活動を活発にするためには、地域のコーディネーター役を育成していくことが必要。現状では、県民向けの様々な講座が行われているが、その後のフォローが無いために、意欲のある人をうまく使い切れていないという感じがする。</p>	<p>長期構想においては、県政運営の基本方針の中で、多様な主体との連携を図りながら県政を進めていくこととしており、長期構想に掲げた政策目的の実現のためには、県政のみならず、県民の皆様、市町村など多様な主体がそれぞれの役割を果たしていくことが必要であると考えております。このため、長期構想において、意欲的に地域づくりに取り組む担い手の育成を政策の一つに掲げており、いただいたご意見も参考にしながら、地域づくりの中心となる人材の育成、地域づくりに取り組む組織やNPOなどの育成に取り組んでまいります。</p>	
8	<p>Ⅲ誰もが活躍できるふるさと岐阜づくりについて、活躍するためには、それなりの情報共有が必要となってくると思われる、また、情報共有と併せて、情報を知る場、誰もが参加(参画)しやすい機会をつくる必要があると思います。このことから、誰もが参加(参画)しやすい地域をつくる取り組みを明記してはどうか。</p>	<p>長期構想に掲げた政策の実施にあたっては、行政だけでなく、県民の皆様をはじめ企業やNPO、市町村など多様な主体と連携していく必要があると考えております。県民の皆様との連携にあたっては、まず構想に掲げた問題意識を皆さんと共有し、その課題解決に向けてそれぞれがそれぞれの立場で何ができるかを話し合う場が必要であり、県としては地域全体のコーディネーター役として議論の場づくりに積極的に取り組みます。 また、地域住民の主体的な地域づくりを進めるため、地域づくり活動の担い手づくりが重要であり、NPOなど担い手育成に対する支援を進めるとともに、自治会をはじめ地域住民組織の活動についても、市町村と連携しながらそれら組織やその他住民の方の自発的なまちづくりを支援するなど、地域づくりに対する支援にも取り組んでまいります。</p>	
9	<p>読んでみると、全体的に、「地域」という言葉が大変多く出てくる。恐らく地域コミュニティ重視の政策を展開するという意思表示の表れだと思うが、基本的な地域政策をどうするのか。自治会組織づくりから、老人会・婦人会等の強化、地域作りに携わるNPOの強化、住民の自治意識向上など、基本的な政策が必要だと思うが。第6章に「地域社会人育成プロジェクト」があるが、これで地域がつくられていくようには見えない。</p>	<p>県民の皆様が安心して暮らすことができるためには、隣近所との助け合い、支え合いなど自分の住んでいる地域で安心して楽しく生活できることが重要だと考えております。そのため、長期構想においても、地域でつながり支え合うことが重要であると考え、「つながる力」の育成を重要な政策の柱に位置づけております。そのために地域づくり活動の担い手づくりが重要であり、NPOなど担い手育成に対する支援を進めてまいります。またご指摘のありますよう、自治会をはじめ地域住民組織の活動も大変重要であり、市町村と連携しながらそれら組織やその他住民の方の自発的なまちづくりを支援するなど、地域づくりに対する支援にも取り組んでまいります。</p>	
10	<p>行政がコーディネート役となり本当の意味での学校と企業の連携を行えるとよい。</p>	<p>ご指摘のとおり、県民はじめ、企業や大学等多様な主体との連携しながら課題解決に向けた取組を進める必要があり、政策の実行にあたって、企業や大学との連携を進めてまいります。 なお、ご指摘を踏まえ、多様な主体との連携の記述において、「大学」についても明記いたします。 P43「第2節 多様な主体との連携」 「役割分担を踏まえたうえで、県政のあらゆる分野において、企業、大学、地域住民組織、NPO、ボランティアをはじめ、市町村、中部圏の近隣県、国など多様な主体と連携していく必要があります。」</p>	○
11	<p>6章10人材力底上げで県外大学との連携は記載されているが、県内大学との連携についても進めてほしい。</p>	<p>ご指摘のとおり、県民はじめ、企業や大学等多様な主体との連携しながら課題解決に向けた取組を進める必要があり、政策の実行にあたって、大学との連携も強化してまいりたいと考えております。 なお、ご指摘を踏まえ、多様な主体との連携の記述において、「大学」についても明記いたします。 P43「第2節 多様な主体との連携」 「役割分担を踏まえたうえで、県政のあらゆる分野において、企業、大学、地域住民組織、NPO、ボランティアをはじめ、市町村、中部圏の近隣県、国など多様な主体と連携していく必要があります。」</p>	○

12	<p>第三章 第一節に 県民及び市町村・県・国が果たすべき役割が書かれ、第五章の(注2)用語の意味欄に、推進の促進する・支援するとありますが、文中には無数の用語が氾濫しています。</p> <p>目標を達成するために、用語の意味の統一と、業務内容明細(政策の方向性の各項目がこれに該当するものと考えます)及び権限一覧(立案・協議・連絡・承認・決裁・報告等)を策定し県及び市町村の首長・議会・行政・県民はこれを正当に遂行するように努力する義務をもつことが必要だと考えます。岐阜県長期構想を実現させるために「業務内容と権限の明確化」により「組織で動く岐阜県の姿」が鮮明にされていなければならないからです。</p>	<p>本長期構想は、現行の県民協働宣言とは異なり、市町村等との役割分担について明記した上で県が取り組むべき政策について記載した県政運営の指針であり、すべての記述の主体は県であるため、推進する、支援する、促進するなどの記述により、県の役割を明確にしております。</p> <p>ただ本構想の実行にあたっては、ご指摘のとおり市町村との連携が不可欠であり、長期構想で目指す政策の目的や政策の方向性については、長期構想策定後も車座討論会などによる県民の皆様や市町村との意見交換を継続して実施していく予定であり、構想での課題意識について県民の皆様や市町村との共有を図ってまいります。</p>	
13	<p>第3章1節について市町村との関係に関する記載が、対等な協力関係というきれいごとだけで終わっており、掘り下げ方が足りないのではないかと。県が新たな行政能力を身につけ、今までは異なる県としての果たすべき役割をしっかりと考えていかなければ、県という組織の不要論まで出てきかねないのではないかと。</p>	<p>長期構想は、県が取り組むべき政策の目的と方向性を明らかにする県政運営の指針です。このため、県の取り組むべき政策を明らかにするために、第3章において、市町村や国との役割分担、行政として取り組むべき政策と優先順位の考え方について明らかにしたところです。市町村との役割分担については、市町村と十分に協議し、本年4月に「権限移譲のあり方に関する報告書」を取りまとめたところであり、具体的にはこれに基づいた包括的な権限移譲等を進めてまいります。</p> <p>なお、報告書については、次のアドレスからご覧いただけます。</p> <p>http://www.pref.gifu.lg.jp/pref/s11108/kengen2/arikatahoukokusyo.pdf</p>	
14	<p>p42 第3章第1節2(2)県・市町村の役割分担において、文化、医療、食といったようなそれぞれの分野の中心が各地にあって、連携することが必要。そのためには、ある程度県がテーブル作りをしていく。また、記述の内容はよいが、各分野で具体的にどの様に実施するのか考えて欲しい、頑張るところをモデル的に応援するなどすべき。</p>	<p>より一層の地方自治の確立に向けて、時勢に即した県と市町村との役割分担と、連携体制の構築を図るため、平成18年12月、県と市町村は「県と市町村との役割分担検討会議」を設置しました。平成19年10月には、中長期的な権限移譲等に係る基本的な考え方となる「県と市町村との役割分担」を取りまとめております。</p> <p>具体的な内容につきましては、長期構想の41、42ページに記載しております市町村、県の役割を明らかにするとともに、その考えを踏まえ、教育・文化分野、保健・医療分野、農業分野等11の分野について、将来の県と市町村の権限、実施主体、内容についてあるべき姿を論じており、その中で、県が広域的な自治体として担う役割についてまとめております。</p> <p>県としましては、地域の実情を踏まえつつ、県としての役割を着実に果たすことで、住民サービスの向上、個性的なまちづくり等を推進してまいります。</p> <p>なお、報告書については、次のアドレスからご覧いただけます。</p> <p>http://www.pref.gifu.lg.jp/pref/s11108/kengen2/arikatahoukokusyo.pdf</p>	
15	<p>第3章 県政運営の基本方針(P40～)について、市町村との対等な協力関係の構築に関連して、「市町村が自主性を高め、自立的な行政運営が可能となるよう、必要となる権限を包括的に委譲します。」との記述がある。「岐阜県の将来構想研究会」の報告書では、「市町村の自主的・自立的な行政運営が可能となるよう、必要な権限を移譲すると同時に、移譲事務の実施について一歩踏み込んだ記載がなされていたことに大変評価すると共に、財源移譲だけでなく人的支援及び技術的支援に関する記述も要望してきた。しかし、今回の「中間とりまとめ」では「財源移譲」に関する記述が削除され、人的支援及び技術的支援に関する記述もなされておらず、大変残念である。権限移譲にあたっては、まず県及び市町村がそれぞれにおいて行政改革を進めるべきであり、市町村(住民)にとって有意義でない「県の行政改革ありきの権限移譲」には反対である。</p>	<p>県から市町村への権限移譲については、市町村と十分に協議し、本年4月、今後移譲を目指す権限・事務及びそのために必要となる財源措置等について議論をまとめた「権限移譲のあり方に関する報告書」を作成したところです。報告書には、権限移譲に当たり、「県は市町村の要望に応じて人的支援措置を行う」、「移譲を受けた市町村において移譲事務等の執行に必要な経費(人件費、事務費等)にかかる財源措置は、移譲事務等を市町村において実施する場合の想定経費を十分に踏まえ、市町村への負担転嫁とならないようにする」、「円滑な移譲事務等の執行に向けて、県は必要となる情報・資料の提供、研修会の実施、マニュアルの作成・提供など、十分な技術的支援を行う」等、移譲に伴う様々な措置を講ずることを盛り込んだところであり、今後とも市町村の意見、要望等を踏まえながら、権限移譲を進め、市町村の自立性を高めてまいります。</p>	
16	<p>県の行政は国と市町村との中間的位置づけであるため、住民にとって役割が見えにくいと思われる。市町村との対等な協力関係の構築を課題としているが、今後は道州制のあり方も含め、その役割を住民に対して明確に示す必要があると思われる。</p>	<p>県と市町村との役割分担については、県と市町村で設置する「県と市町村との役割分担検討会議」において議論したところであり、長期構想の基本方針においては、その議論を踏まえた上で、市町村・県・国の役割分担を明示したところです。今後は、当該役割分担に基づき、県として担うべき政策等を進めてまいります。</p> <p>また、道州制における道・州の役割については、現在、定まったものがあるわけではなく、あるべき姿などこれから国民的な議論を高めていく段階にあると考えています。従って、県では、道州制の議論を進めるため、まずは第二期地方分権改革を着実に推進するとともに、道州制の導入が効率性や経済性のみにとらわれた単なる都道府県合併にならないよう、情報収集に努め、県民の皆様に必要な情報を提供しながら、幅広く議論を深めていきます。</p>	

17	<p>3章2-4で、「県民にどのようなメリットが生じるのかをわかりやすく説明することによって」という記述があるが、メリットだけではないのではないのか。デメリットはないのか。例えば、環境保護行政の場合、市町村にその分野に精通した職員(人材)がいるのか、都道府県と比べて手薄と思わざるを得ないが、そうした中で県から市町村に権限移譲することについては一定のデメリットもある。国と都道府県との関係についても、このように、どんなデメリットが生じるのかを把握し、理解を深める(覚悟する)ことも大切ではないのか。</p>	<p>国との関係においては、地方分権の推進にあたっては、本県の規模や能力等も十分勘案した上で、メリット・デメリットとも十分に検討しながら進めてまいります。</p>	
18	<p>道州制を見据えた議論も必要ではないか。例えば、東海州なのか中部州なのかによって、県の施策は大きく変わってくる。</p>	<p>道州制については、第3章の県政運営の基本方針において記述しているとおり、導入ありきの安易な議論はすべきではなく、また道州制の導入が効率性や経済性のみにとらわれた単なる都道府県合併にならないよう、道州制によって何がどのように変わり、県民の皆様にもどのようなメリット・デメリットがあるのかについての情報を積極的に提供しながら、幅広く議論を深めてまいります。と同時に政策の実施にあたっては、岐阜県という行政単位のみで考えるのではなく、中部圏等近隣県との幅広い連携のもとで進めてまいります。</p>	
19	<p>道州制への移行に対する岐阜県としての考え方について、現行の都道府県を廃止して、複数の府県を統合した程度の面積規模を持つ広域行政体と基礎となる自治体を作り、地方の自立を目指した統治制度に移行すべきとの意見が一部ありますが、中部地域全体の発展を進めることも大切だと思います。岐阜県としてこれまで近隣県と意見交換する中で道州制に対する考え方を整理されているなら教えていただきたい。</p>	<p>道州制は日本という国の形を変える大改革であり、現在は政府、与党をはじめ、経済界や全国知事会等においても議論されているところです。しかし、地方分権の究極の姿としての道州制によって、どのような分権が進むのかということの具体的な道筋が見えてこないのが現状であり、まだまだ国民的な議論を高めていく段階にあると考えています。従って、県では、道州制の議論を進めるため、まずは第二期地方分権改革を着実に推進するとともに、道州制の導入が効率性や経済性のみにとらわれた単なる都道府県合併にならないよう、必要な情報を収集・提供しながら、幅広く議論を深めていくこととしていきます。</p>	
20	<p>道州制に対する理解に疑問を感じます。構想は道州制が地方分権を進めるうえで必要といっていますが、導入ありきの安易な議論をすべきではないと指摘し、県民のメリット・デメリットを含む「道州制に対する議論を深める」に止めています。一方、国の地方分権構想は、基礎的自治体と国及びその中間の広域自治体の3段階に区分しており、県がこの広域自治体の代替機関になり得ないかぎり道州に移行しなければならないのは自明であります。また、道州の役割は構想が想定するような「行財政改革に伴う県の合併」などではなく、極論すれば経済の自立圏域を構築することですが、残念ながら道州に移行するための県独自の方針と政策及び行程が見当たりません。</p>	<p>道州制は日本という国の形を変える大改革であり、現在は政府、与党をはじめ、経済界や全国知事会等においても議論されているところです。しかし、地方分権の究極の姿としての道州制によって、どのような分権が進むのかということの具体的な道筋が見えてこないのが現状であり、まだまだ国民的な議論を高めていく段階にあると考えています。従って、県では、道州制の議論を進めるため、まずは第二期地方分権改革を着実に推進するとともに、道州制の導入が効率性や経済性のみにとらわれた単なる都道府県合併にならないよう、必要な情報を収集・提供しながら、幅広く議論を深めていくこととしていきます。</p>	
21	<p>前から議論されていた首都機能移転について、近年全く話題にもならないがどうなったのか。国民や県民には何も見えてこない。</p>	<p>これまでに、国会において岐阜東濃地域は首都機能移転候補地の一つとして選定されましたが、平成17年10月以降、国会等の移転に関する政党間両院協議会が開催されておらず、残念な現状です。このため、国会での議論など国の状況を見極めつつ、現下の厳しい県財政状況を踏まえ、効率的・効果的な予算執行の観点から、情報収集、国への働きかけ等、必要最小限度の取組に絞って柔軟に対応しております。</p>	

3 重点プロジェクトについて

1	<p>愛知県で総合計画策定に関わったときのやり方をご参考までに。 各部から出てきた重点施策についてその優先度は議論せず、このうち、ストーリー性のあるプロジェクト(具体的手順ができあがっているもの)4、5本を「先導的施策」と位置づけ、財政難であろうとも予算を確保するとして打ち出した。 まさに「選択と集中」であり、これをやらないと総量規制で一律カットというナンセンスな話になり、結局すべてが中途半端になる。 「先導的施策」とは対外的な対策でもあって、重点を厳選すると何が重点で何が重要でないかという議論になり、重点をたくさん載せれば総花的と批判されるので、たくさんの重点施策を先導する機動的な施策、といて打ち出した。 例えば、過疎地におけるバス交通確保を否定はしないが、まずはバスが通る道路が必要だとして最初の3年は道路整備を優先するとかいう話。 また、産業振興として優秀な外国人研究者を受け入れるのに、規制があれば特区申請をするのと同時に、街には外国語標識を整備し、地元住民との共生としてNPOを組織するなど、一連のストーリーができていなければならない。 到達点を示したうえで、各部の施策を組み合わせで一連のストーリーをつくらせる。できたものは「先導的施策」として何があっても予算を確保し、それ以外は重点施策ではあるが、予算の確保は確約できない、というもの。</p>	<p>いただいたご提案にありますように、限られた予算の中で政策を進めていくためには、選択と集中により、重点的な政策に予算や資源を投入することが必要であると考えます。長期構想に掲げた政策の方向性の中でも、特に重点的に予算や人などの資源を投入して取り組む事業を第6章で重点プロジェクトとしてとりまとめたところです。なお、この重点プロジェクトに掲げた政策のうち、ソフト事業などについては、一律に予算を削減するのではなく、一定の重点枠を確保し、重点的に政策を進めていきます。</p>	
2	<p>「政策の選択と集中」が大切であると考えているが、第6章に重点プロジェクトを設けて分かりやすいものとなった。</p>	<p>重点プロジェクトに掲げた事業については、重点的に予算、人などの行政資源を投入するなど、選択と集中により、重点的に進めるべき政策を進めてまいります。</p>	
3	<p>重点プロジェクトは、いずれも緊急を要する重要事項であり、具体的な成果を上げることが期待するが、これらは国の施策、市町の施策とリンクさせているかやや不安なところがある。県は連絡調整という機関にならず、現場を見て、知り、考え、市町及び住民と一緒に行政サービスを実施されることを望みます。</p>	<p>ご指摘いただいたとおり、重点プロジェクトに掲げた事業については、県民の皆様、国、市町村などと十分な連携をとりながら、実施してまいります。</p>	
4	<p>重点プロジェクト部分は大変まとまっていてよい。県民から見ると、身近に感じられて取り組み易いと思う。最終版はカラーでもっと読みやすくしてほしい。</p>	<p>長期構想策定後は、県民の方にわかりやすくその内容を知っていただくため、概要版を作成するなど、より簡単でわかりやすい資料による公表、説明を行ってまいりたいと思います。それ以外にも、県民の方に対して直接職員が向いてご説明、意見交換する場を設けるなど、長期構想の内容を県民の皆様に普及していく工夫をしてまいります。</p>	
5	<p>「第6章 重点プロジェクト」について、まとめとしてよく分かる内容でした。タイムスケジュール化して、強力な推進を期待します。</p>	<p>ご指摘のとおり、構想に掲げた政策の実行にあたっては、重要性、緊急性の観点から優先順位をつけながら進めていくこととします。また、構想に掲げた政策のうち、特に重点的に予算、人などの行政資源を投入して取り組む事業を重点プロジェクトとして取りまとめたところであり、選択と集中による事業実施を進めてまいります。</p>	
6	<p>昨今、農工商連携と言う言葉を目にする機会が増えて来ました。今回、各プロジェクトで様々なPRをしていくとありますが、単体のPRが良いのでしょうか。環境への取り組みはしているが、一方で雇用問題や地産地消、県産品使用や様々な取り組みへは関心が薄い。これでは、全体的な方向性から見るとPRするには足りない取り組みではないでしょうか？ 今後は、幾つもの要素に複合的に取り組んでいくバランスの良い事業を県は求めていくべきではないでしょうか。特に農業と言う部分においては、日本の食糧を今後どうやって確保していくのかというテーマに取り組んでおく時期であると思います。その上で、農家の支援は勿論ですが、岐阜県のように山間部を多くかかえる地域では、兼業農家や農工商の連携が多くの役割を果せるのではないかと感じます。</p>	<p>長期構想に掲げた政策の実行にあたっては、各部局ごとの政策の提示ではなく、政策目的別に政策を提示しており、提示した政策の目的に合致した事業かどうかを絶えずチェックしながら部局横断的な視点での取組を進めてまいります。毎年度の予算においても、実施する政策目的ごとのパッケージで部局横断的に考えていくこととしており、いただいたご提案も参考にしながら部局横断的な取組を進めてまいります。農業に関する政策についても、農家への支援だけでなく、農工商連携などによる加工品の開発や農産物の付加価値向上など売れる農産物づくりについてもあわせて取り組むなど、総合的な視点で進めてまいります。</p>	

7	<p>岐阜県長期構想という壮大なプロジェクトの中で、第6章にある“重点プロジェクト”については、最も取り組むべき項目に位置づけているため冊子の冒頭に配置した方が、インパクトがあると思います。</p>	<p>長期構想の策定にあたっては、まず人口減少をはじめとする各分野での現状分析、将来起こりうる課題の抽出などを行い、こうした課題解決のためにはどんな政策が必要であるかという流れで策定しており、こうした課題解決型の視点は本構想での重要なポイントであると考えております。このため、現状分析と課題の抽出、そしてそれに対する政策の方向性という構成を重視し、重点プロジェクトは第5章で掲げた政策の方向性に沿って、重点的に取り組むべき事業を取り出す形になっているため、第5章の後ろに位置づけております。</p>	
<p>4 数値目標等</p>			
1	<p>ビジョンと組織論が最大の課題となることでしょうか、冒頭に書かれている「あらゆる県民の持てる力を、最大限に引き出すこと」がこの構想の完成の鍵だと考えます。数字で表せないものは目標ではありませんので、長期構想における課題検証型の進行管理とは、この数値目標の管理に他ならないと考えます。</p>	<p>ご意見いただいたとおり、長期構想についてはそこに掲げた政策をいかに県民の皆様と連携して実行していくかが重要であると認識しております。実際の事業実施がしっかり行われているか、政策目的に対して実施した事業がどの程度効果があるかについて検証していくためには、数値目標は不可欠だと考えております。長期構想の目標数値については、県民全体で目指す目標値・社会情勢の変化をモニタリングするための数値と、県が直接実施するサービスなどの量を数値化する事業実施目標というようなものを組み合わせて、県民にわかりやすく、かつ事業成果の検証もできる目標値の設定をまいります。</p>	
2	<p>定量化できるものは数値化してうえで目標にする必要がある。過去の県民協働宣言で掲げた目標数値についてもその成果を十分検証し、達成できなかった項目についてはその要因を分析し、次へつなげること。</p>	<p>ご意見いただいたとおり、長期構想についてはそこに掲げた政策をいかに県民の皆様と連携して実行していくかが重要であると認識しております。実際の事業実施がしっかり行われているか、政策目的に対して実施した事業がどの程度効果があるかについて検証していくためには、数値目標は不可欠だと考えております。長期構想の目標数値については、県民全体で目指す目標値・社会情勢の変化をモニタリングするための数値と、県が直接実施するサービスなどの量を数値化する事業実施目標というようなものを組み合わせて、県民の皆様にわかりやすく、かつ事業成果の検証もできる目標値の設定をまいります。</p>	
3	<p>数値目標がないため、10年後のイメージが沸かない。絵に描いた餅にはならないか。重点プロジェクトの実施に対する経費は、果たしていくらになるのか。この厳しい財政状況の中で、本当に実施ができるのか。もっと絞って、数値目標を上げて実施すべきではないか。</p>	<p>長期構想に掲げた県の目指すべき姿を県民の皆様イメージしやすく伝えるためには数値目標は重要であると考え、新たに数値目標を追加したところでは、ソフト事業など必ずしも大きな予算を必要としない政策については、一定の重点枠を確保することにより、重要性、緊急性等の観点から優先順位をつけながら推進するとともに、大きな投資を要する政策については、事業規模、事業スケジュール及び将来負担などを十分検討し、財源の見通しを立てて進めてまいります。</p>	
4	<p>非常に厳しい岐阜県の財政状況があり、この中間取りまとめに掲げた政策すべてを実現していくのは非常に困難。何に重点を置き、いかに実現していくかが重要。(何が実現可能で何が実現困難なのか明確にする必要がある。)重点プロジェクトをはじめ、各政策について可能な限り目標数値を掲げ、期間を設定して推進していくことが今後の課題になる。</p>	<p>ご意見いただいたとおり、長期構想についてはそこに掲げた政策をいかに県民の皆様と連携して実行していくかが重要であると認識しております。実際の事業実施がしっかり行われているか、政策目的に対して実施した事業がどの程度効果があるかについて検証していくためには、数値目標は不可欠だと考えております。長期構想の目標数値については、県民全体で目指す目標値・社会情勢の変化をモニタリングするための数値と、県が直接実施するサービスなどの量を数値化する事業実施目標というようなものを組み合わせて、県民にわかりやすく、かつ事業成果の検証もできる目標値の設定をまいります。</p>	
5	<p>抽象的な表現が多すぎて、具体的な取り組みが見えてこない。具体的な取り組みについて市町村に投げるつもりでいるならば、投げる内容について具体的な支援・協力の方法を5W1Hという具体的な数値(%など)や例を挙げて建設的な表現も含め盛り込んで欲しい。</p>	<p>長期構想については、今後10年間に県が取り組むべき政策の目的と方向性を提示したものであり、その政策の方向性に沿った具体的な政策、事業の実施に関しては、各分野毎のビジョン・計画等に基づき、毎年度の予算の中で対応してまいりたいと考えております。その中ではご指摘にありました事業の詳細につきましても県民の皆様にお示していくつもりです。また、政策目的達成のための数値目標については、今回新たに追加させていただいたところでは、</p>	
6	<p>目標数値の達成度をチェックして検証することが大切。そのためには評価するためのシステムやルールを決めておくこと。また、長期構想に掲げた政策についてはどれもすばらしいものであるか、それが実行に移せるかどうか重要。その観点からは記載した政策を進めるための財源の確保もはっきりしないといけない。</p>	<p>長期構想の進行管理については、課題検証型の進行管理を実施していく予定であり、構想で示した課題や数値目標について毎年度各種統計・データの確認などにより分析を行うとともに、車座討論会など県民の皆様との対話による実情の把握を通じた検証を行ってまいります。こうした結果を踏まえ、新たに取り組む政策の検討を行うとともに、必要に応じて構想の政策の見直しを行ってまいります。</p>	

5 構成・表記等			
1	現状分析と認識の下に将来あるべき姿をしっかりと示している点は評価できるが、総花的な感を持つのも否めない。 閉塞感あふれる現代には夢があると良い。キャッチフレーズやスローガンがあると良い。	閉塞感ある時代に、夢と希望が持てる地域になるよう、基本目標を「希望と誇りの持てるふるさと岐阜県づくり」としたところ です。	
2	提言が多いため、提言ダイジェストを巻頭に5～6項目で記載してほしい。そしてそれを実行する責任部門、責任者名を明示してほしい。	長期構想策定後は、県民の方にわかりやすくその内容を知っていただくため、概要版を作成するなど、より簡単でわかりやすい資料による公表、説明を行ってまいりたいと思います。それ以外にも、県民の方に対して直接職員が出向いてご説明、意見交換する場を設けるなど、長期構想の内容を県民の皆様に普及していく工夫をしてまいります。 なお、長期構想の重点プロジェクトに掲げた重点的に取り組む政策については、毎年度の予算に反映させ、責任部署も明示した形で公表するとともに、その取組状況や数値目標の達成状況など、政策の進捗状況についても公開してまいります。	
3	中間とりまとめの冊子は一般住民には読みにくい。障害者にも読めるものにしてもらいたい。	長期構想策定後は、県民の方にわかりやすくその内容を知っていただくため、概要版を作成するなど、より簡単でわかりやすい資料による公表、説明を行ってまいりたいと思います。それ以外にも、県民の方に対して直接職員が出向いてご説明、意見交換する場を設けるなど、長期構想の内容を県民の皆様に普及していく工夫をしてまいります。	
4	それぞれの目標はすばらしい。しかし、こんな文章ばかりの資料を一般の県民が見るだろうか。そうすると行政は分かりやすいよう数値で示すが、そうではなく、可視的、目で見て感性で分かるような資料にすべき。	長期構想策定後は、県民の方にわかりやすくその内容を知っていただくため、概要版を作成するなど、より簡単でわかりやすい資料による公表、説明を行ってまいりたいと思います。それ以外にも、県民の方に対して直接職員が出向いてご説明、意見交換する場を設けるなど、長期構想の内容を県民の皆様に普及していく工夫をしてまいります。 なお、長期構想の重点プロジェクトに掲げた重点的に取り組む政策については、毎年度の予算に反映させ、責任部署も明示した形で公表するとともに、その取組状況や数値目標の達成状況など、政策の進捗状況についても公開してまいります。	
5	県民の誰に対しても、説明することができる長期構想の一枚ものがあるといいと思う。	長期構想策定後は、県民の方にわかりやすくその内容を知っていただくため、概要版を作成するなど、より簡単でわかりやすい資料による公表、説明を行ってまいりたいと思います。それ以外にも、県民の方に対して直接職員が出向いてご説明、意見交換する場を設けるなど、長期構想の内容を県民の皆様に普及していく工夫をしてまいります。	
6	第6章の記載方法が、「〇〇を支援」と「支援」という表現が多く、何をするのか具体性に欠けているのではないかと。もう少し具体的な記述をして欲しい。	第6章においては、できるだけ具体的な事業がわかる形で記述しておりますが、支援については財政的な支援から人的支援まで含めて幅広いこともあり、「支援」という表現に統一しております。なお、毎年度の事業実施に当たっては、財政的支援など具体的な事業として具現化してまいります。	
7	第1章 8ページ下段の「儲かる農林畜産業の実現……」のタイトルについて、意図はよく解りますが、表現的に適切か疑問です。例えば「経済効果の高い……」とか「魅力ある……」など。 表現を統一した方が良いのではないのでしょうか。 第2章 26ページ ドメスティック・バイオレンス 目次 2ページ DV	「儲かる農業……」については、今回長期構想策定にあたって、人口減少に伴う地域内消費の減少に対応するため、外からお金を稼ぐ産業の振興が重要であり、特に中山間地においては、農業・林業・畜産業を地域経済を支える地場産業として振興し、地域住民の所得を確保することが重要であるとの政策目的を明確に示すために、敢えて「儲かる」という文言を使用しております。 DV、ドメスティックバイオレンスの表記については、「DV」で統一いたします。	○
8	P15 人口減少社会の到来とともに世帯数減少社会に到ることについて言及されてはいいかですか。	p17において、「世帯の小口・多様化と「多世帯社会」の到来」について言及しているところです。	
6 その他			
1	第5章 県が取り組む政策の方向性V ふるさと岐阜県を未来につなぐ人づくり)について、方向性について賛同できる。しっかりと進めて欲しい。	今後は長期構想に掲げた政策目的の実現に向けて、具体的な施策を着実に進めてまいります。	

2	<p>構想で取り上げられた要望や各種の施策は、県民の最大公約数的な意見であったとしても、来春に行われる県知事選挙の公約(マニフェスト)とはどのような位置関係になるのでしょうか。構想は後に県議会が議決する事になっているため、新たに選出された知事は、構想を踏襲した政策を実行するしか方策がないように思いますが、県民から選出された政治家・新知事のリーダーシップは、どの部分でどのように発揮されるのでしょうか。</p>	<p>知事選後には、選出された知事が自らの公約に基づいて政策を進めることとなると考えております。なお、長期構想については、最終的に3月議会において県議会にお諮りし、その上で今年度中の策定を予定しております。</p>	
3	<p>パブリックコメントは、意見募集の手法としては、受動的なものにすぎない。</p>	<p>長期構想策定にあたっては、これまで、県民の皆様のご要望に基づき、職員が赴き意見交換を行う「車座討論会」、有識者を訪問し一人一人意見を伺う「有識者膝詰め談義」、インターネット上にフォーラムを設け、テーマごとに意見を伺う「インターネット県民委員会」など多様なスタイルで大規模な意見交換を実施しております。</p> <p>パブリックコメントにあたっては、有識者との面談や車座と討論会などの方法でも実施するなど、できるだけ県民の皆様のご意見を幅広くいただくよう工夫をしております。</p> <p>また、長期構想策定後も「車座討論会」などの県民の皆様との意見交換は引き続き行ってまいります。</p>	
4	<p>長期構想の策定には行政担当者ばかりではなく、哲学者、宗教家をいれなくてはならない。</p>	<p>長期構想策定にあたっては、これまで、県民の皆様のご要望に基づき、職員が赴き意見交換を行う「車座討論会」、有識者を訪問し一人一人意見を伺う「有識者膝詰め談義」、インターネット上にフォーラムを設け、テーマごとに意見を伺う「インターネット県民委員会」など多様なスタイルで大規模な意見交換を実施しており、多くの皆様からのご意見をとりいれて作成しております。</p>	
5	<p>策定過程で意見を聞くのみでなく、策定後の長期構想についても県民に直接説明してほしい。</p>	<p>長期構想策定後についても、車座討論会などの形式により、県民の方に対して直接職員が出向いてご説明、意見交換する場を設けるなど、長期構想の内容を県民の皆様にご普及していく工夫をしております。</p> <p>なお、長期構想の重点プロジェクトに掲げた重点的に取り組む政策については、毎年度の予算に反映させ、責任部署も明示した形で公表するとともに、その取組状況や数値目標の達成状況など、政策の進捗状況についても公開し、あるいは県民の皆様のご意見をお聞きするなど、構想のフォローアップを進めてまいります。</p>	
6	<p>県民からの意見を年代別、職業別などで、どんな意見が出てきているのかを分析すれば、現在、直面している問題点が浮き彫りにされてくるのではないかと。</p>	<p>長期構想策定にあたっては、これまで、県民の皆様のご要望に基づき、職員が赴き意見交換を行う「車座討論会」、有識者を訪問し一人一人意見を伺う「有識者膝詰め談義」、インターネット上にフォーラムを設け、テーマごとに意見を伺う「インターネット県民委員会」など多様なスタイルで大規模な意見交換を実施しており、ご指摘のとおり、その年代、属性別等の分析も行いながら、ご意見をとりいれて作成しております。</p>	
7	<p>県会議員は今以上に住民との議論の場を設けて意見吸収を図ってほしい。</p>	<p>政策を進めるに当たって、県民の皆様のご意見を常に取り入れることは最も重要かつ基本であると考え、長期構想における県政運営の基本方針として、現場主義の徹底、県民の皆様との議論の場の設定ということをあらためて明記したところです。</p> <p>県議会に限らず、県として、常に県民の皆様のご意見の取り入れていく姿勢で県政を進めてまいります。</p>	
8	<p>第5章 県が取り組む政策の方向性、第6章 重点プロジェクトにおいて、高齢者の介護のことが第一にあるので、この10年で介護保険制度が良い方向へ変化していくことを期待します。</p>	<p>今後高齢者が増大する中で、誰もが高齢期に不安のない地域をつくることは、県民の皆様が安心して暮らせる地域づくりのために重要な政策であると考えて、重要な柱として位置づけております。高齢者が安心して暮らせる介護サービス提供のためには、介護人材の確保が不可欠であると考え、重点プロジェクトにおいても介護人材の確保を重点的に進めていく旨記述しております。介護人材の確保にあたっては、ご指摘のとおり、介護報酬の見直し等国の制度の改善も必要であり、介護報酬等制度運用の改善を国に働きかけていくことについても、本構想に記述しており、引き続き国への働きかけを行ってまいります。</p>	

9	<p>市町村も経済界も次々に統廃合がなされています。ちょっと視点を変えて国→県→市町村→自治体→班→各戸と目をやると、一戸一世帯(独居)が急増しています。同居(近居)をしていたら、経済的安定、祖父母による子育て・保育の役割は子どもの情操教育にも良いと思えるし、何より働くほどではないが、生きがいのほしい老人に役割があることは喜ばしい事です。地域の力を強化するためにも、家族力を強化するよう個々に努力してもらおうのも大事だと思います。同居率の高いある県では、婦人の就労率、出生率も高いそうです。保育施設がないので働けない。老人福祉施設がない。と何もかも行政にまかせ成り立っていた時代ではなくったように思えます。一番小さな単位の家族が同居(近居)し、支え合う力を強化することが市町村の力となるのではないかと思います。一戸三世帯を目指し同居率を上げるよう願っています。</p>	<p>同居をするかどうか、三世帯同居するかどうかなどについては、県民の皆様が判断される事項ではありますが、ご意見にありますとおり、家族や地域で支え合う地域にすることは、県民の皆様が安心して暮らせるためには必要なことだと考えます。県としては地域のつながりの希薄化などの問題意識から、「つながる力」を育てる人づくりを進め、人と人がつながり支え合う社会を目指した取組を進めてまいります。</p>	
10	<p>最近ではタレントを起用した県産品等のPRを実施しているが、日本中では「岐阜県」の知名度はあまり高くない。やはりメディアは強力な影響力がある。県出身のタレント等の有名人を活用して、県産品の積極的なPRをお願いしたい。</p>	<p>ご意見のとおり、岐阜県の魅力を県外へアピールしていくことは大変重要であると考えており、岐阜県ゆかりの有名人を「飛騨・美濃観光大使」に委嘱し、県の魅力のPRに協力いただいているところであり、こうした取組をはじめ、県の魅力のPRについて引き続き強力に進めてまいります。</p>	
11	<p>非常によくまとめられているが、例えばIAMASやジンチャレなどの固有名詞が出てこないのは何故か。ニートやフリーターへの就職支援事業はますます重要になると思われるのでジンチャレの役割に期待したい。また、今後、IT技術者の不足は深刻化していくので(アート系の学生が多いためややマッチングは難しいものの)IAMASは貴重な供給源となるだろう。</p>	<p>ご意見にあるとおり、若者のニート・フリーター化を防止し、その就業を進めることは重要であると考え、長期構想においても「若者が力を発揮できる地域づくり」を進めていく中の政策の一つに位置づけているところであり、就業支援の取組についても引き続き重点的に進めてまいります。また、人口減少に伴う経済成長の鈍化を抑えるためには、生産性を向上することが必要であり、そのためITを活用した生産性の向上支援を長期構想の政策の一つに位置づけているところであり、IT人材の育成を進め、企業のIT導入による効率化等の取組を支援してまいります。今後の事業実施等に当たっては、ご意見にあるとおり本県の関係機関等との協力・連携のもと進めてまいります。</p>	
12	<p>長期構想全般に外国籍県民への視点があると良いと思います。人口減少とグローバルな人の移動を考えると、外国籍県民の存在は欠かせないため、特にP. 135の自然災害死者ゼロプロジェクトやP. 151の子どもを生き育てやすい岐阜県づくりプロジェクトなどでは、言葉や文化的な背景が異なる外国籍県民への視点をもっと必要なのではないでしょうか。</p>	<p>いただいたご意見を参考にしながら、各分野での取組を進めるにあたりましては、外国籍県民への視点を入れながら取組を進めてまいります。</p>	
13	<p>「第5章 県が取り組む政策の方向性」について、記述的には全てその通りですから、ぜひ積極的に推進されるよう期待します。ただ、これらの実行には、人知を尽くす工夫が必要であり、それらを生み出す源泉は人材です。医者や看護師、介護人材補強には具体的な策が提案されていますが、さらに大学や高等教育機関を作る対策はありませんか？いろいろな他県との比較表では優位な項目が多い岐阜県ですが、高等教育機関はいかがでしょうか？日本一レベルの高等教育機関づくりを目指すべきではありませんか？特に製造業では、これからはブルーカラーも必要ですが、その仕事はますます海外移転が進む業種が多いです。産業立県を目指す岐阜県としては、技術系高等機関を充実し、基盤となる技術開発や事業運営できるホワイトカラー層の充実を図る対策も必要です。ものづくりだけでなく、労務費の安い海外や日本の他地域へ流れてしまうでしょう。</p>	<p>長期構想においては、高い価値を生み出す産業人材を育成することが重要であると考え、今後は、限られた財源のなか予算の重点化を図りながら、県内大学等との連携による企業ニーズに応じた産業人材の育成のほか、高校生や大学生を対象としたインターンシップの拡充、県外大学及び地元企業との連携による県外の学生を対象とした就職説明会等の開催などの取組を進めてまいります。また、ネットワーク大学コンソーシアム岐阜による県内の各大学が連携した共同授業の実施など、大学の連携による機能強化の取組も進めてまいります。</p>	
14	<p>岐阜は偉大なる田舎を目指し、名古屋にないものを提供する。また、名古屋に近いのも売りである。</p>	<p>いただいたご意見も参考にしながら、岐阜県の強みや特徴を活かした地域づくりや移住・定住施策を進めるとともに、近隣県との広域連携を図りながら、共同の取組も進めてまいります。</p>	